

事業名	播磨灘広域共同調査(抄録): 令和5年度豊かな漁場環境推進事業のうち赤潮等による漁業被害対策技術の開発・実証・高度化
予算区分	受託試験研究費(国補)
事業実施期間	(継続事業)
担当者	(環境増養殖担当) 朝田健斗、岡本裕太、池脇義弘、棚田教生
共同研究機関等	水研機構、岡山県、大阪府、香川県、兵庫県、大阪大学

<目的>

瀬戸内海東部海域において、各機関が連携して広範な調査を実施し、有害赤潮プランクトンの発生状況および海洋環境を監視し、既存データも含めたデータ解析によって当該海域における有害赤潮の発生シナリオを検証し、赤潮発生予察技術の精度向上を図る。併せて、これらの予察技術や既存の科学的知見に基づいた行動計画を策定することで、赤潮による漁業被害軽減に資する。なお、詳細については『令和5年度豊かな漁場環境推進事業のうち赤潮等による漁業被害対策技術の開発・実証・高度化報告書』を参照されたい。

<方法>

前述の報告書を参照されたい。

<結果>

プランクトン調査結果を、図1～5に示した。

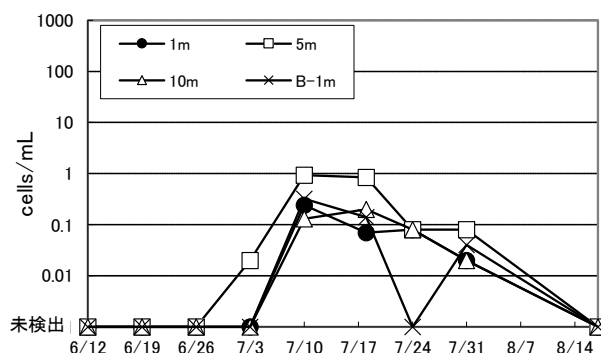


図1 *C. antiqua* 及び *C. marinai* 細胞密度の推移

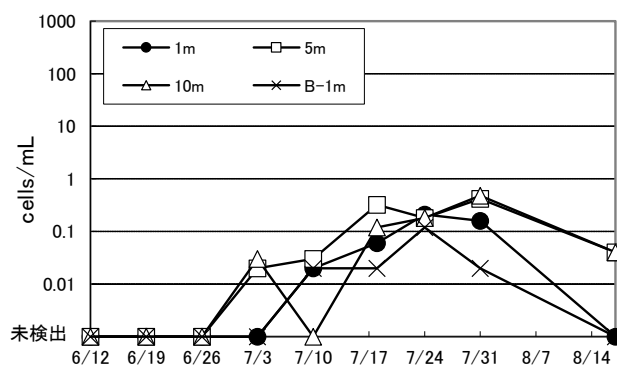


図2 *C. ovata* 細胞密度の推移

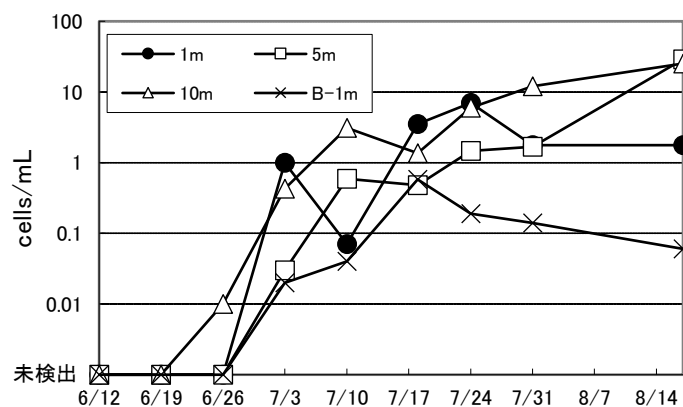


図3. *K. mikimotoi* 細胞密度の推移

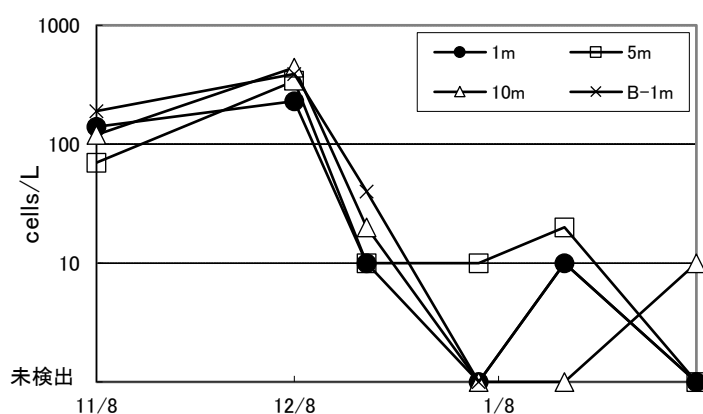


図4. *C. wailesii* 細胞密度の推移

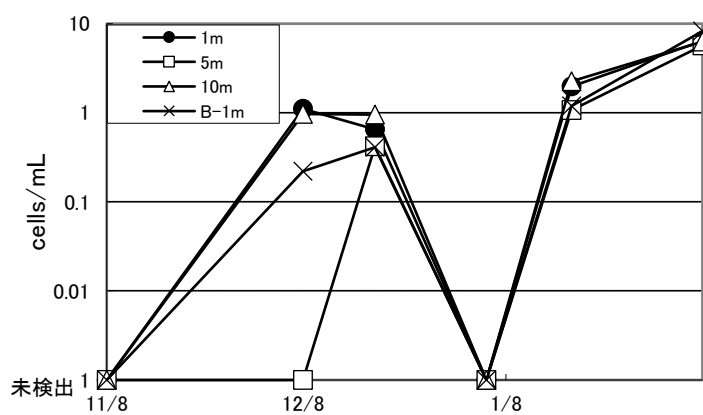


図5. *E. zodiacus* 細胞密度の推移

<今後の課題>

特になし。

<次年度の計画>

継続する。

<結果の発表・活用状況等>

調査の検鏡結果は当日中に関係漁協に送付し、水産振興課に情報共有を行った。